

## 定員稼働率等からみた奈良県宿泊施設の現状 ～観光庁「宿泊旅行統計調査報告」より～

観光庁が6月に発表した「宿泊旅行統計調査報告（平成21年1～12月）」によると、奈良県内の宿泊施設は、①宿泊施設・宿泊者の絶対数が少ない（平成21年の延べ宿泊者数は約111万人で全国最下位）、②旅館の定員稼働率が低い（22.1%：全国（31.1%）より9ポイント低く全国最下位）、③月別稼働率のばらつきが大きいなどの問題点を抱えている。全国の概要および奈良県の定員稼働率の詳細は、以下のとおり。

### 1. 宿泊施設数〔平成21年12月時点〕

従業者数10人以上のホテル、旅館及び簡易宿所は、奈良県は70施設で、徳島県（59施設）に次いで全国で2番目に少ない。奈良県は「従業者10～29人」の施設が全体の65.7%と、他府県よりその割合が高い。

宿泊施設数〔平成21年12月、従業者数10人以上〕

	総数	従業者規模別（構成比）			宿泊施設タイプ別（構成比）			
		10～29人	30～99人	100人以上	旅館	リゾートホテル	ビジネスホテル	シティホテル
全 国	10,141	55.1	34.4	10.5	42.3	12.0	33.8	9.0
滋 賀 県	101	54.5	25.7	19.8	39.6	19.8	39.6	9.9
京 都 府	249	50.2	39.8	10.0	56.2	4.0	20.1	12.0
大 阪 府	243	46.5	33.3	20.2	8.2	0.0	65.8	20.6
兵 庫 県	317	51.4	32.5	16.1	44.2	12.6	25.2	9.5
奈 良 県	70	65.7	27.1	7.1	57.1	14.3	14.3	14.3
和歌山県	110	48.2	37.3	14.5	63.6	18.2	9.1	9.1

### 2. 延べ宿泊者数と実宿泊者数

平成21年の延べ宿泊者数は、日本全体で3億130万人泊、うち県内からの日本人延べ宿泊者数7,137万人泊（シェア23.7%）、県外からの日本人延べ宿泊者数2億2,093万人泊（同73.3%）、外国人延べ宿泊者数1,830万人泊（同6.1%）であった。前年と比べて、延べ宿泊者数は2.7%減少、外国人延べ宿泊者数は17.8%減少した。

実宿泊者数（宿泊手続をした人数）は全体で2億9,972万人、うち外国人実宿泊者数は1,184万人。

一人当たり平均宿泊数は全体で1.26泊、外国

人で1.55泊であった。

### 3. 都道府県別の状況

#### ●延べ宿泊者数

1位の東京都が3,453万人泊（シェア11.5%）、2位の北海道が2,456万人泊（同8.2%）、3位の大阪府が1,571万人泊（同5.2%）で、上位3都道府県で全体の約1/4を占めた。特に、県外からの日本人延べ宿泊者数の構成比のウェイトが高いのは、沖縄県が87%、香川県が85%、徳島県と奈良県が84%であった。

前年と比べた伸び率が高いのは、鳥取県（30.9%）、青森県（14.3%）、岩手県（9.8%）であった。

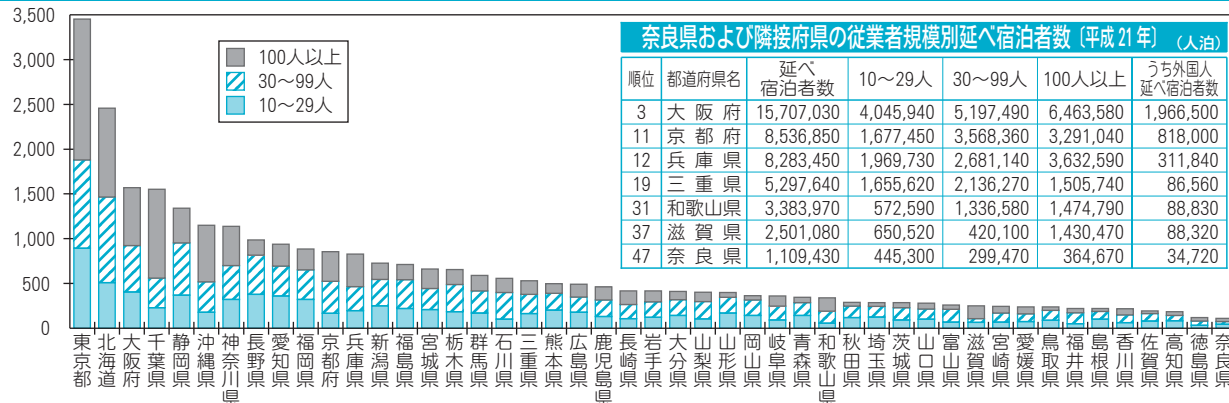
#### ●外国人延べ宿泊者数

1位の東京都が638万人泊（外国人延べ宿泊者数全体に占めるシェア34.9%）、2位の大阪府が197万人泊（同10.7%）、3位の北海道が181万人泊（同9.9%）で、上位3都道府県で全体の1/2以上を占めた。

前年と比べた伸び率が高いのは、山梨県（11.5%）、秋田県（7.3%）、千葉県（3.4%）であった。

国・地域別に見ると、1位は台湾264万人泊、2位は中国258万人泊、3位はアメリカ231万人泊、4位は韓国219万人泊、5位は香港157万人泊となっている。

都道府県別・従業者規模別の延べ宿泊者数〔平成21年〕



●宿泊施設の定員稼働率（延べ宿泊者数/総収容人数）

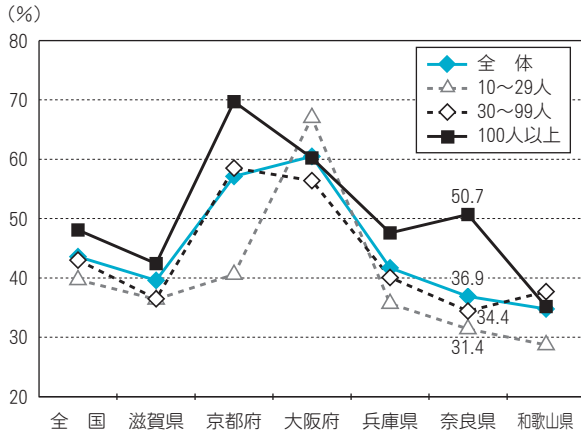
全宿泊施設の定員稼働率の全国平均は43.6%で、前年比1.6ポイント減少。従業者規模別に見ると、10～29人の宿泊施設が39.7%、30～99人の宿泊施設が43.0%、100人以上の宿泊施設が48.1%であった。

定員稼働率を都道府県別に見ると、東京都が64.7%、大阪府が60.5%、千葉県が58.1%と続く。

4. 奈良県の定員稼働率

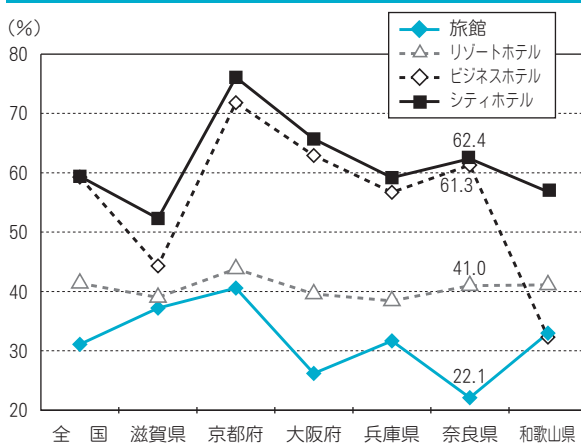
奈良県の定員稼働率（36.9%）を従業者規模別に見ると、「100人以上」では50.7%と、近畿の中で京都府、大阪府に次いで3番目に高い。一方、「30～99人」（34.4%）は近畿で最下位、「10～29人」（31.4%）は和歌山県（34.8%）に次いで2番目に低い。

近畿の府県別・従業者規模別定員稼働率（平成21年）



宿泊施設タイプ別では、シティホテル、ビジネスホテル等は全国平均並みの数値だが、旅館は22.1%と、全国（31.1%）より9ポイント低く、全国最下位。

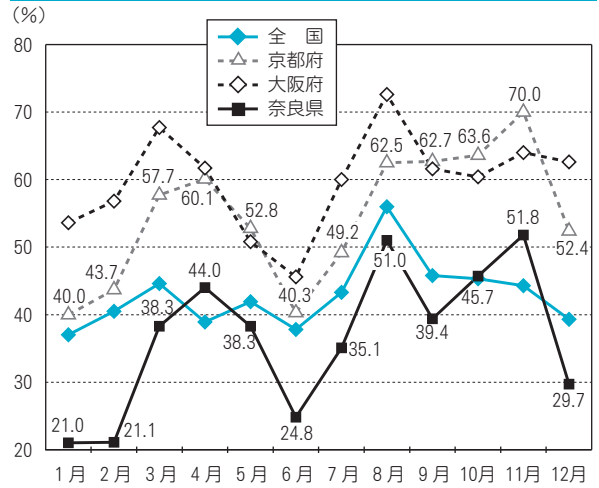
近畿の府県別・宿泊施設タイプ別定員稼働率（平成21年）



月別では、全国平均を上回っているのは4月、10月、11月の3か月のみで、1月、2月、6月、12月の4か月は全国平均をほぼ10～20ポイント下回っている。ちなみに、全国平均で最も稼働率が高いのは8月の56.0%、最も低いのは1月の37.0%であった。

宿泊施設タイプ別では、旅館は1月、2月が10%前後と低く、秋でも30%台前半にとどまっている。一方、県内では新しいビジネスホテルが増加しており、春・夏・秋とも高い定員稼働率となっている。ビジネスホテルは県内において観光客の受け皿として一定の地位を確立してきていると思われる。

奈良県、京都府等の定員稼働率（平成21年1～12月）



従業者規模別、宿泊施設タイプ別・奈良県の定員稼働率（平成21年）

月	定員稼働率 (注)	従業者規模別(注)			宿泊施設タイプ別			
		10～29人	30～99人	100人以上	旅館	リゾートホテル	ビジネスホテル	シティホテル
1月	21.0	14.9	18.9	35.8	11.0	28.5	32.3	35.7
2月	21.1	15.8	18.2	35.4	9.2	25.1	37.4	40.0
3月	38.3	31.5	32.4	59.4	20.4	45.1	57.6	67.3
4月	44.0	36.1	43.0	61.4	29.2	47.1	61.7	69.9
5月	38.3	31.9	38.5	51.2	27.9	41.2	48.7	57.2
6月	24.8	21.4	23.6	32.9	17.4	26.6	32.5	37.6
7月	35.1	32.8	32.8	42.1	27.6	32.6	50.9	49.9
8月	51.0	47.3	46.6	63.1	37.8	53.0	69.0	72.9
9月	39.4	34.7	38.1	49.9	29.2	39.2	58.0	58.1
10月	45.7	39.5	45.5	58.6	32.0	46.8	64.5	67.0
11月	51.8	41.3	51.5	73.8	32.2	58.7	81.6	79.6
12月	29.7	24.1	27.4	43.8	18.7	33.5	42.4	47.8

注) 宿泊施設タイプ不詳を含む。

県内宿泊施設は、①宿泊施設・宿泊者の絶対数が少ない、②旅館の定員稼働率が低い、③月別稼働率のばらつきが大きいなどの問題点を抱えている。宿泊施設の新規誘致は、既存施設の稼働率の更なる低下を招く懸念がある。やる気のある既存施設の経営支援や、観光客数の底上げ・平準化が求められる。